

【所属名：市教育委員会事務局生涯学習課生涯学習係】
【会議名：第3次糸魚川市生涯学習推進計画
第2回策定委員会】

開示
一部開示 (理由:条例第 条第 号 該当)
不開示
時限不開示 (開示: 年 月 日)

会 議 録

作成日 令和5年8月28日(火)

日	令和5年8月22日(火)	時間	14:00 ~16:00	場所	市民図書館3階視聴覚室
件名	(議題) 第3次糸魚川市生涯学習推進計画の策定について (案)				
出席者	【出席委員】16名 (敬称略) 井崎 由紀子、清水 博、村井 康司、橋立 茂樹、和泉 裕一、長 砂男、 松本 香織、澤口 裕宇子、矢島 好美、渡邊 文恵、西澤 隆、園田 和子 (欠席者: 渡邊 闌壽、水澤 哲、青山 範夫、渡邊 秀幸) 【事務局】 (生涯学習課) 山本課長、伊藤課長補佐、須澤係長、伊藤主査、七澤主査、 作本主査、岩崎主査、小田嶋主査、大西主任主事、齊藤主事				
	傍聴者定員	5人	傍聴者数	0人	

会議要旨

進行：事務局

1 開 会 (14:00)

挨拶

2 協 議

(1) 第3次糸魚川市生涯学習推進計画の策定について (案)

①事務局説明 (計画素案についてP1~P15まで説明)

(質疑応答および意見交換)

委 員：P2においてSociety5.0という言葉は世間的になじみのある言葉なのか。もしそうでなければ注釈などがいるのではないか。

事 務 局：他市の計画などを参考にすることで取り入れさせてもらったが分かりにくければ削除、注釈をつけるなどで対応したい。

委 員：認知度の低いということはきちんと啓蒙していく必要があると思うので、事業などで取り入れていってもらえれば良いと思う。

委 員：P9において項目として「スピード感をもって」という言葉を入れていただきたい。

事 務 局：現状と課題等を改めて整理する際に参考にさせていただく。

助 言 者：人口データについては糸魚川市で出していると思うが、今の数字ではなくて推移予想を1つ出すだけでも良いと思う。

事 務 局：検討していきたい。

委 員：P10にある0の興味がないから1の自ら進んで学ぶステップへ導くのが一番大切で難しいと思う。学びへのサポートをもっと具体的に示した方が良いのではないか。

委 員：次回の修正案を示す中で具体的な部分については示していただければと思う。

委員：次回の会議の際の資料として市の公式LINEを利用している市民の統計や変化についてご用意してもらいたい。高齢者が実はこんなにいるといったことがあると思う。

事務局：担当部局に確認して分かればお示ししたいと思う。

委員：P9について輝きの種類を増やしてもらえたらと思う。今この計画については輝く人が「主体的」や「リーダー」という言葉が多いが、人によって輝き方は違うと思っている。人によっては前にでて輝く人もいるし、サポートすることで輝く人もいると思うので、いろいろなゴールがあるといいと思う。

事務局：そういった考え方も取り入れていきたい。P11の図面に関しても別の図にしていこうと改めて検討していきたい。

委員：学ぶ・つながる・輝くという部分において、興味がない人も輝いている、輝く才能があると思う。この書き方だと学ばない人が良くないように見える。糸魚川市にいて特に何もしていない人も居ていいよというような部分も残してほしい。

事務局：生涯学習という観点で書かせてもらっているので、そういった部分についてはどう書いていくか検討したい。

委員：糸魚川市のような密度が小さいところではつながるのは難しいと思う。そのためつながるきっかけを作る、サポートすることは大切だと思う。活動している団体からしてもこういう風に示してもらえるとお願いしやすいので良いと思う。

助言者：つながりのサポートはとても良いと思っている。しかし、つながりへのサポートが1項目しかないのは少し寂しいと思う。そのため既存の活動団体をつなげていく、コラボレーションしてもらうようなものがあったら良いのではないかと。このまま人口は減少していくと思うので、そういう目線があっても良いのではないかと。

②グループ協議（P16～23までの各分野について）

【家庭教育支援分野】

委員：家庭教育の4本柱のうちの1つが「読書」なのはどうか。「図書館教育」「図書館活動」などはどうか。委託に出してから充実した貸本屋になっている。一見良さそうだが、地域資料の集積などの大切な部分はどうなるのか。なぜかグリップできる機能がない。図書館協議会が必要。学校図書館の連携もそう。学校図書館は小学校ごとに格差がある。小さいところのサポートなどを図書館がしてあげなければならない。学校図書館との連携を業務としてあげるべきだった。

委員：学校の図書館に司書はいるのか。

委員：拠点の学校を基準として巡回している。その格差もある。

委員：子どもが見る本は好きなものなら何でもいいと思っている。入り口は何でもよくて、そこから本を好きになるきっかけにもなる。そういった子どもが好きな本はぼろぼろになるのだが、なかなか買ってくれない。

委員：学校司書、各学校の図書担当の先生、市民図書館が連携しないといけない。その上で事業委託はネック。受託業者は仕様の中でよくやってくれていると思う。仕様書の内容を見直しても良いのでは。県立図書館の電子書籍サービス体験会などは、それで借りられるなら図書館はいらないという人が出てきそうで危惧している。

助言者：計画としては生涯学習推進計画の他に、子ども読書活動推進計画も他にある。市としては

ブックスタートを行っているが、それを学校までどうつなぐか。さらに地域との連携をどう取り入れるかが課題。また、保護者とのつながりも重要。

委員：つながりという点では、目的のない人が集まってくるという意味では市の施設の中で図書館は結構利用頻度が高いのでは。図書館もそうだし、人のコネクションを作る場所はいっぱいあると思う。それができるような仕掛けづくりのために、(担当が事業計画時に意識できるように)、計画には何かひっかけりを作る言葉を入れ込む必要がある。

委員：「食育」は「生活リズム」に入っているのか。家庭教育のどこかに入れた方が良いのでは。
委員：生活リズムで言われる「早寝早起きおいしい朝ごはん」。この「おいしい」がプレッシャーになるからやめてほしいという声も聞く。ワンプレートでパンに色々乗ってるようなものでもいいじゃんっていう。そういう時に、この計画はきっと(普段朝食を作らない)オヤジが作ってるよねとなる。

委員：「コミュニティスクール」という言葉をどこかに入れたい。

委員：計画に関係するかは分からないが、自分がボランティアで保育をするときに、昼の部屋がある施設が少なく困っている。市民会館に昼の部屋がないのはなぜか。

委員：昼の部屋がある施設は減っていると思う。要は乳幼児のサポート事業ができる環境整備が必要ということ。そういった内容を計画のどこに入れ込むか。

委員：子どもの話でいうと、自分の子どもに糸魚川で働けとは言えない。外から来る人の方が、田舎を新鮮にとらえているので外から来てもらった方が良いと思う。

委員：20代、30代の人の本音は産婦人科のない所には行けない。

委員：イメージもある。市外に出た人は昔のままのイメージ。でも実際は変わっている。市のアピールが大事だが、その点加賀市はすごい。コネクト21など。SNSの手数を投下している。糸魚川では、つながりへのサポートが必要な中でキターレなどうまく回っているところもある。高齢者の下の世代がスポイルされる前にサポートする必要がある。カフェなど、来たら自然に会話が弾む場所が都会はある。そういう場では子育て支援の話も進む。居心地がよく、そこに集まってくる場所が必要。クラブハウス美山は様々な工夫があって良い。

助言者：今の案では「学ぶ」「つながる」の順だが、つながりが生まれてそこから学びに発展する
と考えるならば、つながると学ぶは反対であるべきか

委員：そう思う。最初の学びというか、0から1が難しいところであって、わかりやすい打ち出しが必要になる。つながりを最初に持って来ると周知が重要になってきて、SNSなどを利用した打ち出しが必要。今はHPが分かりにくく、公式サイトに飛べなかったり、何をやっているのかわかりにくかったりする。また、単発で終わってしまうことが多い。最近も無印良品のイベントがあったが、2回で終わってしまった。何回かやってくれと、この回には行けなかったけど次の会には行けたとか、参加するチャンスが広がる。1回で終わらないことが大事。1つだと引っかけられないけど、複数回あればどれか1つ引っかけものがあるかもしれない。

委員：学校司書の整備が追いついていない。学校応援隊で支援できないか。

委員：学校応援隊は形骸化してきている。全体の話でいうと、市は組織連携が必要。例えば、貸出し可能な備品など、各課が所管しているためいろんな課に聞かなければならない。本来は一元化できるはず。

事務局：生涯学習は横のつながりであるべき。他課との連携が重要である。

事務局：P16◇目的のゴールが「良好な対人関係を身に付けられるようにする。」となっている点についてはどうか。

助言者：◇具体的なサポートの【輝く】が目的に近い。これを目的と置いて、この前段階を【輝く】に位置付けてもいいかもしれない。

→◇目的

「・・・安心感や自己肯定感を醸成し、親子間の関係や地域と学校と家庭が協力し地域全体で子育てを行う環境をつくる。」

委員：「すごい人になりなさい」はいかにもお役所的。落としてもいいのでは。

→◇目的

「・・・できることを目指す。」で切る。

【青少年活動分野】

事務局：学ぶ・つながる・輝くという目標に対して、青少年教育では、必要な目標や具体的なサポートの方向について決めたい。個別の事業の話ではなくて、全体的な青少年教育の目標について話していく。

青少年活動を担当している中で、健全でたくましい青少年というのは、自分で考える思考力を持った人のことであると思っている。また、このような人材や考え方は、青少年活動などの体験活動をさせるだけでは生まれづらく、指導者側が意図的に事業を計画して行う必要があると考えている。

事務局：郷土愛を育むためには郷土をよく知らないと難しい。郷土を知る機会は大人から子どもへ提供する必要がある。

委員：健全な成長のためにはやはり食というものを大切にする必要がある。

委員：青少年事業の対象は小中高生である。高校は義務教育ではないが、学校教育の一環であるため小・中学校、高校ではない社会教育、生涯学習との兼ね合いが大事である。

委員：これからの社会で大事なことは、自分に自信を持つこと、自己肯定感だと思う。それを青少年教育で育む必要がある。

事務局：たくましいという言葉の中にもいろいろなとらえ方があると思う。表現的にはこのままでも良いと思う。学校の教育と両輪で進めていく中で愛着形成や誇りをもって外部に自慢できるようになってほしい。

委員：青少年の教育に関わって自立・自律という言葉を目にした。自らを律することが出来る人になってほしいと思う。また、どうしても元気な子もいれば心の弱い子もいると思う。どんな子でも輝けるような場を作る必要があると思う。

委員：社会のどんなところでもいいから自分のアイデンティティや居場所を作れると良い。0から1に行くための事業などを企画していけると良い。

委員：みんなで一つのことをして達成感を持つということも大事であると思う。

委員：一人一人の達成感というのを指すと数が多くなりすぎてしまう。そのため一人一人違って良いが集団活動をすることが出来るということもたくましさの一つとして必要であると思う。

事務局：目的の部分については皆さんから意見いただいた自己肯定感や自律などのキーワードを入れていきたいと思う。

- 委員：市では学校ごとの子どもたちの意見を聞くような場所はあるのか。
- 事務局：生涯学習分野ではあまりないが、学校教育の方ではいろいろな場面で聞いていると思う。
- 事務局：事業に参加した人からはアンケートなどで意見はもらえている。
- 事務局：事業に参加してもらっている人からは聞いているが、学校ごとには聞けていないのが当課の現状である。
- 委員：子どもからの意見で糸魚川のこういうところがいいといった話が聞けると良いと思う。
- 事務局：具体的なサポート(目標)の部分と話していきたい。
- 委員：ジオパークの学習などを以前はバスなどで移動出来ていたが、予算の関係でなかなか最近ではできていない。家庭でいろいろなところを回るのは難しいと思うので市で支援があると嬉しい。
- 委員：地域行事などでも子どもたちと地域がつながることが出来ていいと思う。
- 委員：そういったことをしたいが子どもがいなくなってしまう。スマホ等でネットを通しての人のつながりが増えているが、直接的な人間同士のつながりが大事だと思う。
- 委員：公民館では地域の講師を使って子どもたちに講座をしており、子どもたちに地域を知ってもらう上でいいと思っている。
- 委員：中学生くらいになると興味のあるなしが強くなるが、企画の段階から入ってもらうと楽しさを感じることが出来て参加してくれたりする。
- 事務局：体験活動だけではなくいろいろなところでつながりがあると感じた。他の部分でもキーワードなどあれば教えてもらいたい。
- 委員：地域学校協働活動やコミュニティスクールなどで横のつながりや地域とのつながりを強められるよう情報共有をしていってもらいたい。
- 事務局：輝くの部分で小・中学生や高校生が何かしたいという際にそれをサポートするというような部分が抜けていると感じたので、市や地域でそこをサポートするという文言を入れたいと思うがどうか。
- 委員：お互いが Win-Win な関係が作れて行くと良いと思う。

【成人教育分野】

- 事務局：成人教育分野について、前回の計画では生涯学習・地域づくり活動となっていたが、生涯学習計画の中に生涯学習という分野があると全部を網羅するように受け取られる場合があるため、成人教育に特化して目的をつくりたい。
- 委員：素案には「地区公民館や生涯学習センターを拠点とした～住民の自主的な活動を促進する」とあるが、現状で公民館等は住民の自主的な活動に使われているが、そこからステップアップできるようなサポートはできていないと思うし、それができれば人材育成にもつながると思うが、こういったことは公民館等では仕掛けられないと思う。
- 委員：計画全般をみると輝く人（リーダー）を育成することが目的のように思える。
- 事務局：リーダー育成だけが目的というわけではないが、市民に広く学びの機会を提供するなかでリーダーというか目標になれる人が出てくれれば色々と繋がりが生まれると考える。
- 委員：輝くという単語がわかりにくい。捉え方は人それぞれだが、この文章だと自分は現在輝いていないから輝かなくてはならないのかと思ってしまう。
- 事務局：総合計画の基本構想が「さわやかすこやか輝きのまち」となっており、最上位計画に繋げ

るキーワードとして輝くという言葉を目標にした。活動等に参加しなくても日々楽しく過ごせて人生に満足しているならば、その人は輝いていると思う。ただ、興味のない活動に渋々参加した結果、思いのほか面白かったという感想をもらうこともあるので、そういった機会の提供についても計画に入れたい。

委員：市が事業や活動の情報をもっとたくさん発信する必要があると思う。こういった情報は人づてに聞くことが多いので、市は色々な方法で発信すべき。

委員：情報を多く発信することも大事だが、事業の案内や報告を多く発信しても何にも繋がらないと思う。それよりも情報の中身のほうが重要で、どういう目的の事業なのか、事業でどんなことが起こったか、参加者の反応はどうだったかなどがない情報をどんな媒体で出しても興味を引けないと思う。

委員：事業や活動に参加してもらうためには、ターゲットの状況を考慮したうえで情報発信する必要があると思う。

事務局：学び直しについて意見はあるか。

委員：英会話教室があるといいという声は聞く。青海ではALT等の有志で行っているらしい。

委員：関連事業のなかで外国人生活相談事業は今の時代に必要だと思う。「つながる」を目標とするなら市在住の外国人がまさに繋がりを必要としている。例えば、おまんた祭りとその事業のコラボレーションも有りではないかと思った。また、保健福祉事業をキターレで行っているが、福祉事務所から参加者の反応等について聞かれたことがなく、そういうのは気にならないのか疑問に思った。

委員：全体会議のなかで半強制的なコラボレーションの意見があったが、最初だけ市で仲介してもらえるとやり易いと思った。

委員：人の流れや繋がりがテーマにあっても良いと思う。無理に繋げようとする負担になる人もいるが、繋がって互いの顔が見えないとまちづくりはできない。

事務局：地域の伝統文化の継承も成人教育として重要と考えるが意見はあるか。

委員：地域ごとの特色があるので、地域外の人が入るのは難しそう。

委員：地域での決まり事もあると思うので、市全体で考えたことを地域が受け入れてくれるか疑問。あと、高齢者に関して言えば、こういった学びの場に出ない人は何があっても出ないと思う。

委員：コロナ禍で大きく変わった。集まりに参加しなくなった。外出させることが難しい。

委員：高齢者向けのスマホ講座をよく行っているが、単純に操作を教えるだけじゃなくてスマホを使うことで楽になったり趣味等が広がったりするような内容の講座にして欲しい。

委員：青春サポーターはすごく良いアイデアだと思う。

委員：高校生にとっても学びがあると思うし、なにより得意分野を教えることを楽しんでいると思う。キターレでもスマホの操作に困っている方がいれば近くにいる高校生に教えてあげるよう依頼することもあり、それが繋ぐということだと思う。

委員：キターレのように気軽に立ち寄れる施設が市内の至る場所にあると良い。

事務局：地区公民館にそういう役割を求めている。

委員：地区公民館は用事がないと入りづらい。ロビーにいても何の用か声を掛けられる印象。

委員：何かの作業に集中したい場合は公民館を利用して、多くの人に活動を知って欲しい場合はキターレを利用するといった使い分けは利用者側ではできていると思う。それぞれ施設の

強みを知ってもらうとより使いやすくなると思う。

【生涯スポーツ・健康づくり分野】

※どこをどう直すかという話し合いに重点を置いたため、とりまとめ意見を掲載

(1)生涯スポーツ・健康づくり領域のねらい

- ・世代を越えた生涯に渡る健康づくりやスポーツの交流を通して、目標の共有を図ったり、より多様な仲間づくりを心掛けたりして、主体的に健康で生き生きとした生涯を目指す市民を育成する。

(2)学ぶ（興味を持たせ、継続させるような内容）

- ・各種事業を発展させたり、総合型地域スポーツクラブの設立を進めたり、また、それらの活動を広報したりすることによって、多くの市民が生涯に渡る健康づくりや介護予防について考え、学ぶ機会を得られるようにする。
- ・地域活動や学校、スポーツ協会など、それぞれの目的に応じた活動を自ら選び、互いに効果的に連携・協力し合う社会体育活動を推進する。

(3)つながる（つながりを広げる内容）

- ・スポーツを通し、子どもから高齢者まで、世代を越えた交流を図り、多世代に渡る指導者の育成を図る。
- ・健康教室やスポーツ教室を通して、共に活動する仲間やライバル友達等の交流を促進する。
- ・スポーツ協会（競技団体）や健康づくり、福祉関係者、食生活改善関係組織等とのつながりをつくり、全市民を挙げて健康づくりに対する意識を高める。

(4)輝く（輝かしい内容）

- ・スポーツ大会やスポーツ教室を通して、自己の競技力の向上や仲間と共に目標に近づく満足感や充実感を味わう機会を促進する。
- ・生涯現役として活躍できる健康な体を目指し、その実現のための健康管理や継続的な運動の習慣を身に付け、いつまでも体を動かすことのできるよろこびを体感できる市民を増やす。

（助言者からの総括）

助言者：生涯学習は人生全てに関わることなのでそういった目線で計画を作ってほしいと前回お話しした。やはり生涯学習の計画ではそういった人生の中でどうやったら充実していけるかを意識していく必要がある。それを忘れると目先だけの計画になってしまう。そうならないよう今後も皆さんの活発な意見で計画を作成していってもらいたい。

3 その他

次回会議日程等について事務局説明

【質疑等】

特になし

閉会(16:00)